

- 通信・放送衛星は静止衛星が主で、多チャンネル(多数の中継器搭載)かつ長寿命(10～15年)を志向するため、大型化傾向。
- 我が国の衛星製造企業である三菱電機が、技術開発を通じた実績等を背景に、近年、国産バスを用いた商業通信衛星を4機(国内1機(SuperbirdC2)、海外3機(ST-2、Turksat2機))受注。
- 我が国の衛星通信・放送事業者であるスカパーJSAT(アジア最大)は14機(うち1機が三菱電機製)、放送衛星システム社は5機の衛星を保有する(2010年10月1日現在)。

米国

- 米国企業4社で商業通信衛星の約60%のシェアを持つ。
- 小型から大型までの各種の衛星バスを保有。

欧州

- 欧州2社で商業通信衛星の約30%のシェアを持つ。
- 小型から大型までの各種の衛星バスを保有。

ロシア

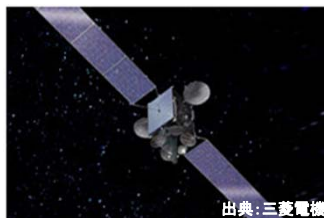
- 静止衛星とロシア独自のモルニア軌道(高緯度対応)の衛星を組み合わせ、国内サービスを実施。
- 衛星は外国からの受注実績あり(3社で10%程度のシェア)

中国

- 大型衛星の開発・製造技術を保有
- 外国にも既に販売実績あり。

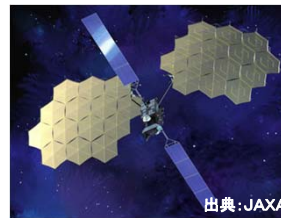
インド

- 中型静止衛星の開発・製造技術を保有。
- 大型衛星を開発中



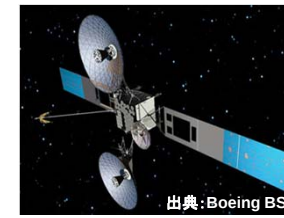
通信衛星 スーパーバード(民間衛星)
データ通信など

出典:三菱電機



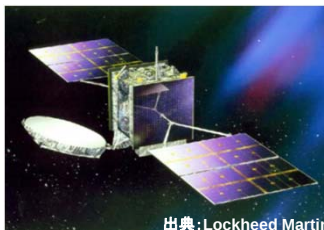
技術試験衛星 きく8号(日本)
大型展開アンテナ等の技術で携帯端末による移動体通信の実現

出典:JAXA



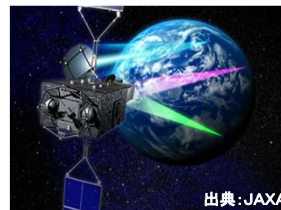
追跡データ中継衛星 TDRS(米国)
国際宇宙ステーションやスペースシャトルとの通信に使用

出典:Boeing BSS



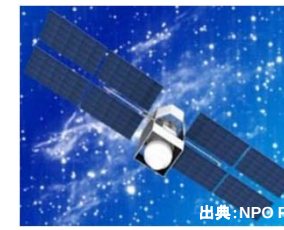
放送衛星 B-SAT(民間衛星)
衛星放送

出典:Lockheed Martin



超高速インターネット衛星 きずな(日本)
国内のみならず国際的なインターネットアクセスの超高速化、デジタルデバイドの解消など

出典:JAXA



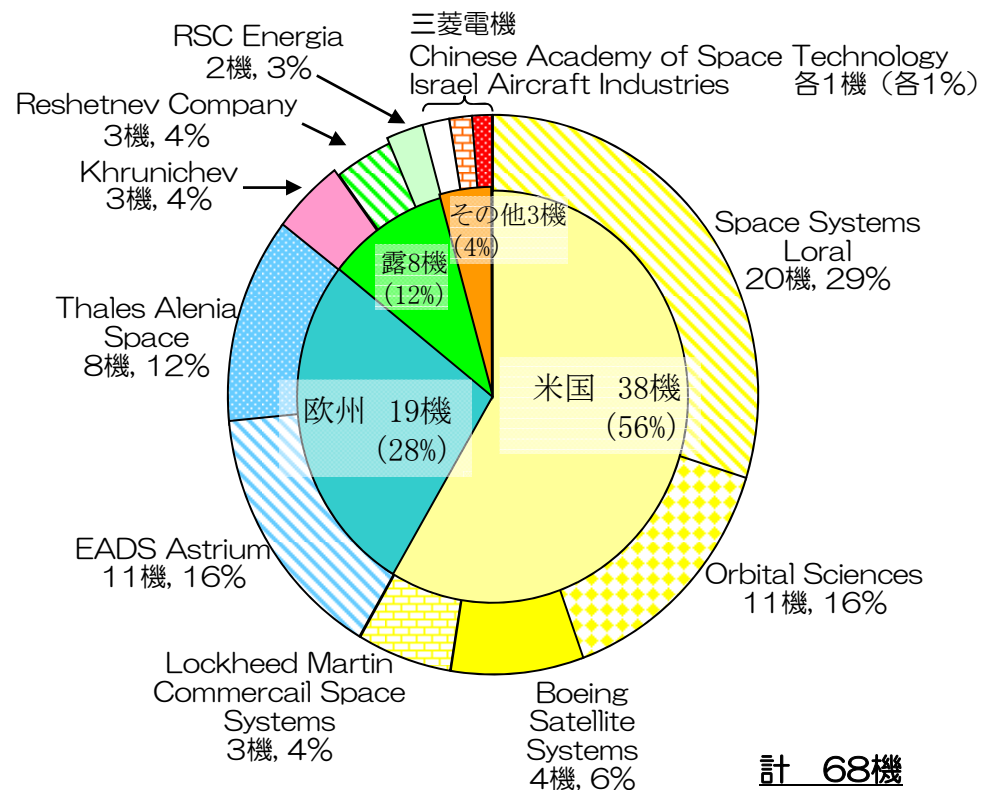
モルニア通信衛星(ロシア)
モルニア軌道上の新型通信衛星

出典:NPO PM

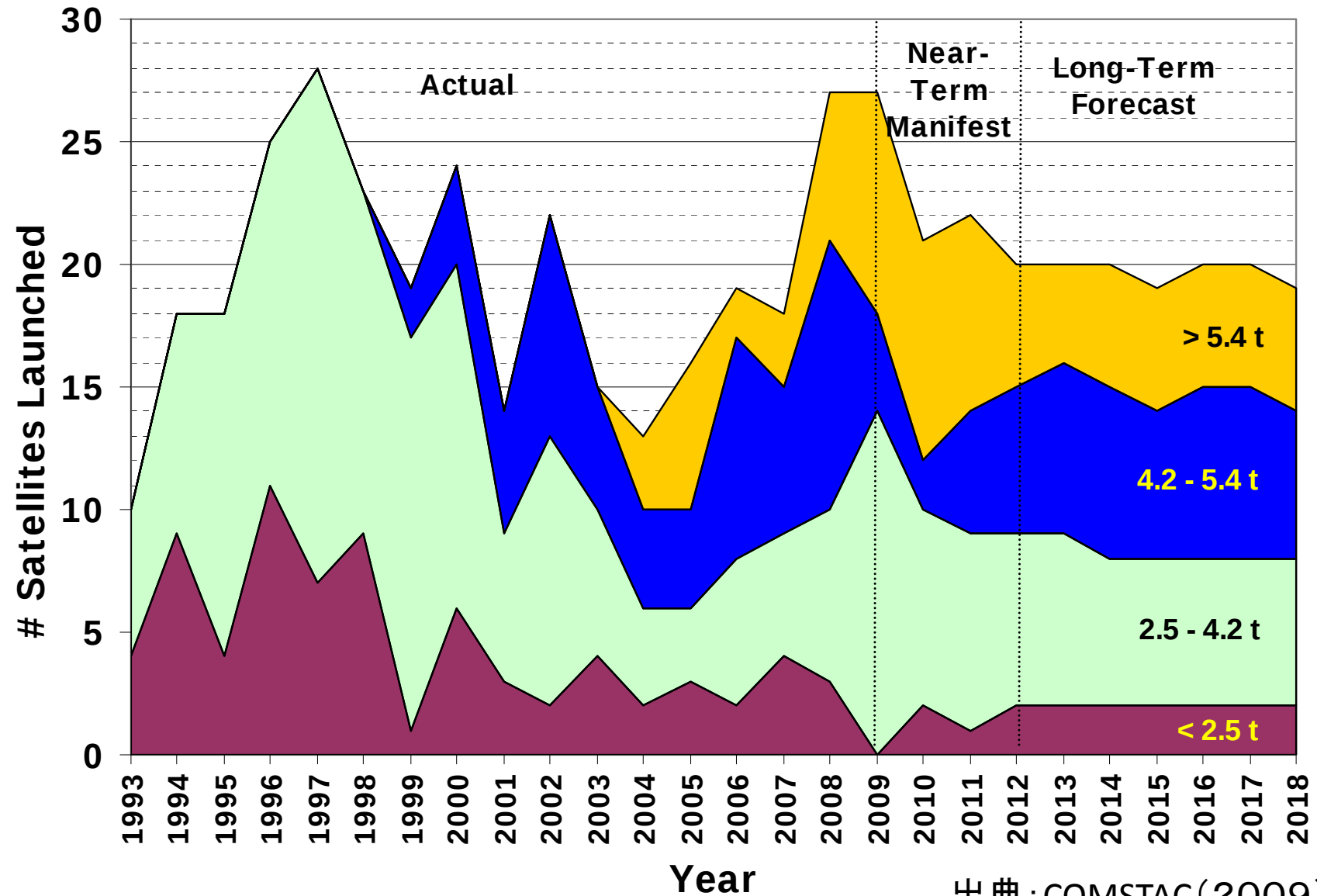
国際受注動向

- 世界の衛星の商業利用の大部分を通信・放送分野が占めるが、これまで日本企業が受注したのは4機のみ。なお、地球センサー、太陽電池パドルなどの一部の機器レベルでは、日本の技術が海外衛星に広く採用されているケースもある。

商業静止衛星企業別受注残・受注機数シェア(2008年)



商業静止衛星打上需要予測



出典: COMSTAC (2009)